

パリ合意を受けて

角和 昌浩 (かくわ まさひろ)

要約 2013年に発表されたシェルのグローバルシナリオ「ニューレンズシナリオ 2013」は、本年2021年に新しいグローバルシナリオが発表されるまでの間、8年の命脈を持った。それだけの先見性と堅固さを備えた作品だった。2015年12月、COPパリ合意が成った。これを受けてシナリオチームは「ニューレンズシナリオ 2013」の土台の上に、未来に向かって国際社会が、「21世紀末、2℃未満」の目標をめざして進行してゆく、“かくあるべき”ストーリーを、なんとか植え付けようと、様々な検討を行っている。その成果は3つの小規模シナリオ作品にまとめられた。これらを時系列で並べてみると、シナリオチーム内の議論の発展を読みとることができて興味ぶかい。

1. はじめに

前回投稿で、シェルのグローバルシナリオ「ニューレンズシナリオ 2013」の中で展開されたエネルギー／気候変動問題を紹介した。このシナリオ作品は未来の社会システム全体を語る作品である。ここで使われたフレームワーク、すなわち複数のシナリオストーリーを同時に語るための枠組み構造は、2021年2月に発表された新グローバルシナリオ「The Energy Transformation Scenarios (エネルギー変革シナリオ 2021 と略称)」に至るまで、8年間保持された。「ニューレンズシナリオ 2013」のフレームワークとストーリーには、それだけの先見性と堅固さがあつた、ということです。

この作品の系あるいは補足扱いの小規模作品がいくつか生まれている。

今回の投稿では、2016年5月の「A better life with a healthy planet : pathways to Net-Zero emissions ベターライフ、健康な地球シナリオ 2016」、2018年3月の「Sky, Meeting the goals of Paris agreement スカイシナリオ 2018」、そして2020年9月の「Rethinking the 2020s コロナ禍シナリオ 2020」の3作品を、順に、たどります。

なお最後の「コロナ禍シナリオ 2020」は、「ニューレンズシナリオ 2013」と最新グローバルシナリオ「The Energy Transformation Scenarios エネルギー変革シナリオ 2021」の橋渡しをしている作品であります。

さて、2015年12月のCOPパリ合意で、いわゆる「ネットゼロ社会」が世界大の長期未来の社会システムにかかわる長期目標として、国際的な認知を得た。

前記の小規模作品群は、このあたらしい事態を受けてシナリオチームが、長期未来のエネルギーシステムの姿と、CO₂排出量や大気中CO₂濃度の関係を中心に考え進んだ5年間の軌跡を垣間見せてくれる。

「ベターライフ、健康な地球シナリオ 2016」でシナリオチームは、途上国の人々が今より豊かな生活を求める願望を押しとどめることはできず、世界のエネルギー需要は増え続ける、というメッセージを出した。

「スカイシナリオ 2018」は、シナリオ理論面から注目すべき作品であろう。社会全体シナリオとエネルギーシナリオとの関係整理について¹、シナリオチームは従来の理論的立場からは驚くような離脱を見せた。

「コロナ禍シナリオ 2020」は、探索的アプローチを採用した社会全体シナリオである。未来射程は2030年くらいまでの比較的短期に設定している。ここに載せられたエネルギー／気候変動問題の議論は、「スカイシナリオ 2018」のそれを手直ししたもので、目新しさは、ない。

¹連載第3回 第3章 第3節にて詳述しました。

2. 「ベターライフ、健康な地球シナリオ 2016」

2.1 ビジネス環境の大変化

パリ合意で、いわゆる「ネットゼロ社会」が国際的な認知を得た。

ここで読者諸賢に思い出していただきたいのは、第3回投稿で詳述したSDGsのことである。